

## 商業機能から見た文京区の地域的性格

上 弘 子

文京区は都心でもなく郊外住宅地でもなく、その地域的性格が明確にとらえにくい地域である。この卒業論文では、文京区的地域的性格を商業機能にスポットライトを当て、特に最近の動向を見てゆこうとしたものである。

文京区は都心に近く、卸売業の集中地域である都心3区をとりかこむ周辺卸売業地域の一部となっている。文京区の卸売業の中心となるのは東京大学を背景に成立した医療機械器具業種であり、東京大学付近の本郷・湯島に集中を見せ、この問屋集団の支配のもとに同地域への医療器械メーカーの集積が著しい。

文京区における小売業は都電の廃止・地下鉄の敷設を契機に消費の都心等への流出を余儀なくされ、現在では都区部の中でも1店規模の極めて貧弱な振わないものになっている。近隣へのサービス機能としての最寄品業種についても、近年の夜間人口の減少を反映して、横ばい、または減少の傾向を見せている。しかも、文京区はマンション化等により住宅地としての性格を変えつつあり、こうしたことに今後どう対応してゆくのか興味深い。

文京区の商業において近年最も注目されるのは飲食業である。1店規模・全体としての規模共に都区部でもかなりの上位にあり、しかもそのうちの社交娯楽の要素の強い業種についてはますますの増大を見せている。こうしたことの背景には文京区の昼間人口の大きさ、その増大が考えられ、昼間人口を集める様々な機能がクローズアップされてくる。①文京区の工業は都区部の北西部から多くの流入人口を集め、その中心となるのは出版印刷・衣服その他・医療機械器具業種であっていずれも東京という巨大都市のポテンシャルに依存した工業なのでこのまま存続するものと思われる。②学校の多いことも文京区の大きな特色であり区外から多くの通学者を集めるが、今後は郊外への移転も考えられるので昼間人口の増大の大きな要因とはならないと推測される。③業務管理機能は近年都心からの進出が著しく、今後もこの傾向は続くと思われ、これを主要因に文京区の昼間人口は今後も増加を見込まれる。飲食店の分布は、小売店の分布に比べて片寄りが見られ、喫茶店・バー等の分布を見ても工場等の分布とかなりの一致が見られる。

文京区においては規模の小さい商店街が数多く散在しており、しかも交通量の多い道路をはさんでの立地のため吸引力が半減している場合が多いと言える。区内の商店街は、主として近隣の夜間人口に支えられるものと地下鉄駅周辺にあって昼間人口に支えられるものとに大別され、前者においては、開設の古い商店が目立ち、消費の流出による商圈の縮小にもかかわらず買回品業種の比率が未だ高いものも少なくなく、後者においては、昔ながらの最寄品店に数多くの新しい飲食店が加わって商店街を形成している。

文京区はひとつの地域としてのまとまりがなく、むしろ北西—南東方向に（道路・交通機関に沿って）細長くのびて都心に直結したいくつかの地域の寄せ集めと考えた方が妥当であろう。こうした条

件下にある文京区のイメージを今回は或る程度具体的につかむことができたと思う。

## 榛名火山北東麓台地における 集落立地条件に関する考察

上 村 恵利子

### (1) 目的

群馬県のほぼ中央に位置する榛名火山の北東麓（行政区域：渋川市）を調査地域とし、火山麓の乏水台地における集落立地条件を考察する。

### (2) 枠組

最初に調査地域の簡単な概説を述べた後、地形・集落発達史・土地利用史・集落の形態と分布・農業・集落立地条件（気候、地形、地質、水文、交通路および位置、土地利用）等、以上の観点から考察を行なった。

### (3) 結果

①榛名火山北東麓には、古期泥流からなる3台地が存在する。台地は標高260～480mで、開析谷によって5つに分断される。開析谷と台地の間は、最高120mの標高差のある急崖をなす。開析谷には6世紀に二ツ岳から噴出した軽石流が流下し、降下軽石層が台地のほぼ全域を覆う。その厚さ1～3mである。

②台地は古代より秣場として使用され、放牧が行なわれた。人はなかなか住みつかず、明治になりようやく開拓され集落が発生した。その後は、第二次大戦直後の農地改革にもとづく開拓により、再び開拓され、新しい集落が発生し、現在に至る。

③台地には10集落存在し、いずれも農業を営む。兼業化が進み、りんご、酪農、畜産が主な都市近郊型の農業である。また、二ツ岳降下軽石を原料として軽石ブロック業が盛んである。

### ④集落立地条件について

・台地の集落の発生は降下軽石層の分布とその厚さに影響される。台地の中でも、降下軽石のほとんど分布しない2集落には中世から人が居たが、降下軽石が1m以上分布する他の集落は、明治になりようやく開発され集落が発生した。

・台地の地下水は深層・浅層の2層に大別される。台地に浅井戸（深度15.5mまでとする。）は開析谷に数個あるにすぎず、乏水地帯である。これは、台地という地形ばかりでなく、軽石流の堆積によって、更に乏水度は高まったと思われる。集落への井戸への依存度は当初より低く、川の上流や湧水から水をひいた。現在は簡易水道が敷設される。

・本台地は伊香保と渋川にはさまれた位置で、それらの町に近い。りんごはほとんどが伊香保の観光客に売られ、兼業農家の務め先は渋川市街地が多い。台地の地理的位置が農業に影響すると言えよう。

・台地はその性質から次の特徴をもつ。①隔絶性、②緑の自然環境、③広い土地、④伊香保と渋川へ近いこと。国立結核療養所、ゴルフ場、ゴミ焼却炉、公園などのように、台地の特徴をふまえた土地